



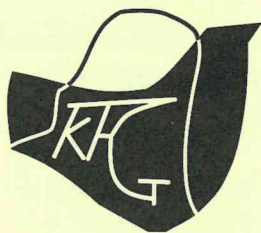
# 黄河の森

## K F G

発行／特定非営利活動法人  
黄河の森緑化ネットワーク  
常務理事・事務局長／矢野正行  
編集責任者／小川良太  
〒650-0011  
神戸市中央区下山手通2-13-7  
東昌ビル7F 華僑総会内  
TEL・FAX:078-392-8328  
E-mail:kouganomori@s6.dion.ne.jp  
URL:<http://www.kobe-chinese.com/kouganomori>  
IP:05031111874



「夏の2021年度の植樹地」



ああ あの大河 太古より 流れる誇り  
ああ その緑 永久に たやさぬ心  
燃えたつ生命 ここに ここに

CONTENTS

- P.2 事務局からの報告  
「2022年 コロナ禍の活動状況」  
編集子からのお知らせ
- P.3 庭木の健康診断 27  
絵本からのメッセージ 34
- P.4 新連載「環境史・土地開発史・災害史」

事務局からの報告

# 2022年 コロナ禍の活動状況

会員の皆様、コロナ感染が始まってからもう3年になろうとしています。如何お過ごしでしょうか。7月に入りBA-5と言う変異ウイルスによる第7波が発生し、全国では連日20万人を超す感染者が確認されています。是非行動に最大の注意をし、絶対にコロナに感染しないよう日々をお過ごしください。

## 第19回 総会

『黄河の森緑化ネットワーク』第19回総会は昨年に引き続きコロナ対策のため、皆様からの委任状・郵送による書面議決に基づき5月28日に理事・監事のみが出席して開催しました。その結果、21年度事業・会計決算。監査結果の報告通り承認されました。昨年度の事業活動は、オトカ前旗における10年目事業地（2020年開始の日中友好会館支援金事業）の進捗状況の電話・写真等による確認と書面作成方法などの通信業務が中心でした。日中両国におけるコロナ封鎖による人の往来の途絶は、この確認業務を予想を超える難事業にしました。一方国内活動の中心である六甲住吉山手植樹地については、例年3回の活動を実施してきました。これも感染症の発生を恐れて植樹後の生育状況の確認を兼ねて、少人数での草刈りを実施しました。



3月の六甲住吉台

22年度事業予定は、昨年末時点ではコロナ感染症の収束見通しが立たないこともあり、日中友好会館への支援事業費の申し込みを見合わせ今年度の中国での活動は予定をしておりません。国内活動においても、コロナ禍での2年間は殆ど活動が出来ず巣籠状態となっています。活動の中心である六甲山住吉山手での植樹活動は、今年3月やっと再開し、9月には下草刈りも予定していました

が、第7波の発生により中止せざるを得ない状況です。もちろん会員が殆ど高齢者という事情もあります。

総会の最後に、石嘉成代表理事から健康上の理由のため代表理事を辞退したいとの申し出がありました。石代表にはご高齢の中で活動をしてきていただけてきました。今後は理事として留任、活動していただくことで全員了承しました。新代表理事には金啓功理事を指名し了承を得ました。他の理事・監査員は全員留任となりました。

この2年間の巣籠状態が続いた結果、昨年度の寄付金収入は大幅に減少しております。当法人は営利活動を行っておらず、寄付金と会費収入頼りの運営を行っています。コロナ禍とは言え、寄付金収入をいかに増やすかが最大の課題となっています。会員の皆様には今後ともご支援をお願いします。

## 10年目事業地

中国・内モンゴル自治区オトカ前旗での「沙漠化土地植樹活動」では、10年目の植樹を今年4月末で完了しました。しかし前号でも触れましたように昨年夏季のオトカ地方の気候は例年と比べると少雨でした。このため植樹した苗の活着率が悪く、大規模な補植が必要となりました。補植作業は多くの地元住民の参加を得て4月に終了しました。これを受けて7月末には助成金の清算事務も終了し、日中友好会館から約3,850,000円の振り込みを頂きました。今後はオトカ前旗への送金を支障なく完了することが大切となります。ま

た、1年後には日中友好会館が、オトカ前旗の植樹場所の生育状況を視察に訪れるとの事ですので、問題なく承認を得ることが次の助成事業申請の条件となります。これまでも事業の遂行に伴う事務所類の作成方法・解釈における日中間における齟齬が多く、その擦り合わせには大いに悩まされてきたところです。その意味においては是が非でもオトカ前旗当局が、適切な対応をされることをお願いするところです。

事務局長 矢野正行



## 編集子からのお知らせ

今号より新連載記事「環境史・土地開発史・災害史」が始まります。執筆は2019年にご講演をいただいた、立命館大学環太平洋アジア文化センターの高橋学特任教授によるものです。同氏は人類の土地開発史から研究を進められ、最近では自然災害に対する「備えと警告」をも盛んに発しておられます。

コロナ感染症に掻き消されがちですが、今夏も異常気象による洪水・火山爆発等が頻発しております。これらの自然現象と災害の発生のメカニズム・対処法などについて解説していただく計画です。

これまで連載してきました「中国便り」は筆者の楊玉麗氏のご都合により、いったん休載といたします。同氏には2013年の日本滞在中に始まり、帰国後も含め10年間に渡り中国社会で話題になったこと、風俗などを紹介していただきました。長期間のご苦勞に御礼申し上げます。

会費・緑化支援金等協力者名簿は次号にてご紹介します。

# 私と環境(36) 庭木の健康診断 ⑳

## 庭木の手入れ 《つる植物》

樹木環境研究会「ミルフィーユの会」  
天 野 孝 之

前回に続き「つる植物」の話です。

13) スイカズラ (スイカズラ科 Lonicera japonica) : 境栽木 - 低木  
枝(茎)が長く伸び、つるになって枝分かれしながら緩く巻き付きます。あちこちで雑草化しており、駆除が厄介です。新しいつるは茎の中心部が中空になっていませんが、古くなると中空になります。5-6月甘い香りのする花を2個ずつ付け、はじめ白色ですがやがて黄色く変化します。若い葉はそのまま食べたり、乾かしてお茶(忍冬茶)として利用します。



サツキの上に覆いかぶさるように成長したスイカズラの新梢



ヤマツツジの枝に冬季の葉をつけて越冬した状態葉縁を少し内側に巻き込む。

14) センニンソウ (キンポウゲ科 Clematis terniflora) : 境栽木 - 中木  
日当たりの良いところでよく生育し、絡まりつかれた樹木の樹冠全体が真っ白く見えるほど多数の花をつけます。ボタンヅルやクレマチスと同じ仲間です。葉柄で庭木に絡まりつくところは、クレマチスと全く同じです。茎や葉に触るとかぶれることがあるので、除去作業には注意が必要です。



古い茎は縦に割れるのが特徴

15) ツタ (ブドウ科 Parthenocissus tricuspidata) : 境栽木 - 高木  
低木の樹木に棘と巻きひげで絡まり登っていきませんが、高いところまでは登っていきません。巻きひげは太くしっかりしています。鋭い棘があるため、引っ張っての除去は危険です。地際部で切れやすく、地下には根塊が残るため、完全駆除は困難です。

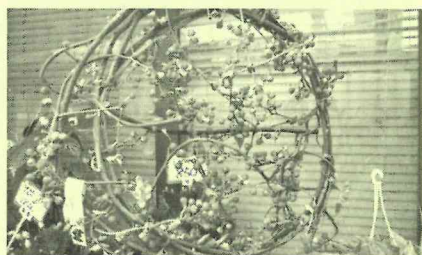


スギの樹皮上に形成されたツタの吸盤

16) ツルウメモドキ (ニシキギ科 Celastrus orbiculatus) : 境栽木 - 中木  
雌雄異株で、雌株には直径1cm程の液果ができ球形で黒く熟します。葉柄基部に托葉の変形した巻きひげがあり、これで樹木に絡まりつきます。若芽はアスパラガスとよく似た味で、山菜として重宝されます。シオデとよく似たタチシオデがありますが、タチシオデの葉は薄くて光沢がなく、裏面は白っぽく感じます。



ヤマツツジに覆いかぶさり、結実したツルウメモドキ ヤマツツジは衰弱し、地衣類が着生し始めている



秋にリースとして花屋で販売されている



### 絵本からの メッセージ 34

## 「コーベッコー」

畑 中 弘 子 (児童文学者)

私は奈良県南部の小さな町で生まれ育ちました。神戸へのあこがれが強く、この地に住んで早や半世紀以上になった今も、変わりなくファッションブルでダイナミックな都市に思えます。そんな躍動する「コーベ」を描いた絵本を見つけました。

コーベッコーの港町に朝日が昇り、「キタノンザカ」の風見鶏がトキの声をあげます。黒メガネのおじさんが港の観覧車に乗り込んで、太陽を観測していました。と、金星が横ぎり、何と「ロッコーざん」の湖に落ちこちるのです。そして金星がぼっかり口を開けます。中から船に乗った美しい「ビーナスカ」が踊り出てきました。その船はやがて「ヌノビキイ」の滝を下り、蒸気機関車の通っている鉄橋の下を通り、奇想天外な旅へ……。やがて、「みなとによる」がやってきて、「ビーナスカ」と船はお迎いの金星の口の中へ。風見鶏が「コーベッコー」と鳴き、「きんせいは みぶるいして うちゅうのかなたへ かえっていきました」。

神戸在住作家による迫力溢れる絵が魅力です。愉快で楽しい絵本。



作：絵 スズキコージ (BL出版)

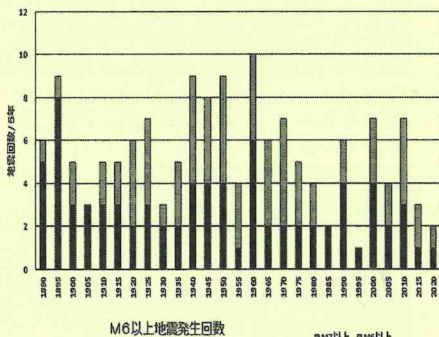
# 環境史・土地開発史・災害史 ①

立命館大学 環太平洋文明研究センター

特任教授 高橋 学

1995年兵庫県南部地震(M7.3)、2004年中越地震(M6.3)、2016年熊本地震(M6.5、M7.3)2018年大阪府北部地震(M6.1)などの直後に、マスコミのインタビューに住民の多くは、「こんな大きな地震は経験したことがない。」とか「この地域は大きな地震が起きないと思っていた。」と答えていた。また、マスコミも「未曾有の巨大地震」というような見出しで報道を行っていた。しかし、科学的な観測が行われた1891年濃尾地震(M8.0)以降に生じた地震をみると住民やマスコミの感じ方が正確ではないことが判る。たとえば、M7.0以上の地震は、日本において5年に約3回生じているのである(図1)。地震の規模をみると、決して「未曾有の巨大地震」ではないし、上記の4地域で大きな地震が起きていないわけでもない。

(図1)

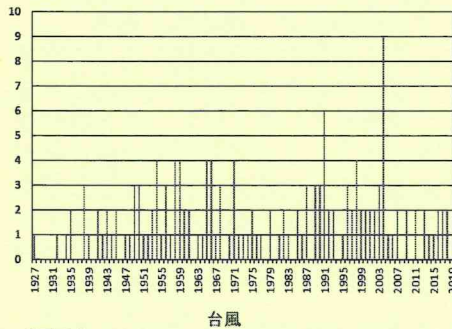


ここで、まず、はっきりさせておく必要のあることは、「地震」と「震災」とは同じことではない。「地震」は地表面が揺れる物理的な現象であるのに対して、「震災」は地震で人間が生命や財産を失うことである。たとえば、兵庫県南部地震により生じたのが「阪神淡路大震災」である。2011年東北地方太平洋地震(M9.0)は地震の規模は、20世紀以降に生じた地震の6番目の規模であった。死者・行方不明者18,448人であり、津波の被害が大きかった。そして、マスコミは、この地震を貞観11年(869年:推定M8.3以上)と比較して、1000年に1度の巨大地震と呼んだ。しかし、この地域では1896年(明治29年)で明治三陸地震(M8.2~M8.5)が生じており、津波を中心に21,999人の死者・行方不明者が出ている。当時の日本の人口が現在の1億2千560万人のおよそ4分1であることを考慮すれば、その被害の大きさが想像できよう。ただし、注意が

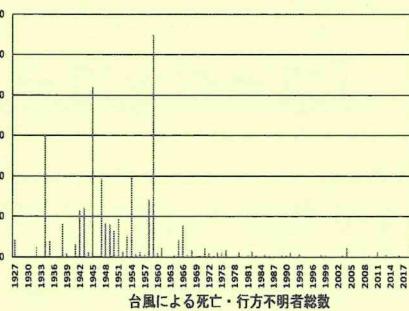
必要なのは、東北地方から千葉県犬吠埼付近までは北から南に向けて寒流の千島海流が南下しており、人口が意外に少ないことである。さらに、明治三陸地震の終焉を告げるのは1933年の昭和三陸地震(アウトターライズ型)であり37年かかっている点も注意しなければならない。2011年から11年がたち、東北地方太平洋沖地震は終わったとばかりのマスコミや政治家の言論がめだっているが、決してそんなことはない。ちなみに、2004年にインド洋大津波を発生させたスマトラ・アンダマン地震のアウトターライズ型地震が起きたのは2012年であった。

さて、1959年の伊勢湾台風から1993年北海道北西沖地震が起きるまで、約30年間、地震や台風の被害をほとんど受けない時期があり、幸運にも、この時期に経済の高度成長を果たした(図2、図3)。社会的インフラストラクチャー整備が進んだことも、災害による被害を小さくしたと言える。

(図2)



(図3)



ところで、1888年の会津磐梯山の噴火、1881年濃尾地震、1896年明治三陸地震と地震や台風雨にみまわれ大災害が生じた。なかでも、1943年に発生した内陸直下型の鳥取地震(M7.2)死者1083人。1944年の海溝型地震の昭和南海地震(M7.9)死者・行方不明者1,223人。1945年内陸直下型三河地震(M6.8)死者・行方不明者

3,432人。1946年海溝型地震の昭和南海地震(M8.0)死者行方不明者1,330人。1948年福井地震(M7.1)死者・行方不明者3,769人の連続的な発生は注目される。すなわち、これらはフィリピン海プレートの圧縮の影響でユーラシアプレートが反応した地震である。現在の日本でみれば、早ければ1995年兵庫県南部地震、遅くとも2016年熊本地震、鳥取県中部地震、韓国慶州地震、2017年韓国浦項地震、2018年大阪府北部地震らが次に起きるフィリピン海プレートの圧縮によるユーラシアプレートや北米プレートが反応する地震の可能性が極めて高い。政府地震調査会はフィリピン海プレートが相模トラフで北米プレートの下にもぐり込み生じる地震を首都圏直下地震。フィリピン海プレートが南海トラフでユーラシアプレートの下にもぐり込み生じる地震を南海トラフ地震としている。それに対して著者は、フィリピン海プレートが琉球海溝からユーラシアプレートにもぐり込み生じる地震までを一括して「スーパー南海地震」と呼んでいる(図4)。フィリピン海プレートを影響によるものをあえて分ける必要はないと考えている。

ここ数年間続いている北陸能登半島の地震は、太平洋プレートに圧縮された北米プレートとフィリピン海プレートに圧縮されたユーラシアプレートが正面衝突して生じているのである。すなわち、スーパー南海地震の前哨戦といえる。

2011年東北地方太平洋地震の前にも2008年に内陸直下型の岩手宮城内陸地震が生じていた。これらのことを考えると、「スーパー南海地震」が生じるまでの時間は短いといえよう。政府地震調査会の言う30年以内というのには今日も明日も含まれているのである。

(図4)

